

## 4. 東部沿岸 概要

### 4.1 対象範囲の設定

当会議では、東は岩美海岸陸上地区（岩美郡岩美町）から、西は長和瀬漁港（鳥取市長和瀬）までを対象とする。各海岸等における事業実施内容は下記に示すとおりである。

表 4.1.1 事業実施内容

区分	名称	管理者	種別	実施事業
海岸	1 岩美海岸（陸上地区）	鳥取県	建設保全海岸	汀線・深淺測量 養浜 サンドリサイクル
	2 岩美海岸（浦富地区）	鳥取県	建設保全海岸	汀線・深淺測量 リーフ整備 サンドリサイクル
	3 福部海岸	鳥取県	建設保全海岸	汀線・深淺測量 リーフ整備 サンドリサイクル
	4 鳥取海岸（鳥取西地区白兔）	鳥取県	建設保全海岸	汀線・深淺測量
	5 気高海岸（浜村地区） 気高海岸（水尻地区）	鳥取県	建設保全海岸	汀線・深淺測量 サンドリサイクル
		鳥取県	一般公共海岸	汀線・深淺測量
6 青谷海岸	鳥取県	一般公共海岸	汀線・深淺測量 サンドリサイクル	
河川	1 陸上川	鳥取県	二級河川	河口掘削
	2 吉田川	鳥取県	二級河川	河口掘削
	3 塩見川	鳥取県	二級河川	河口掘削
	4 千代川	国土交通省	一級河川	
	5 溝川	鳥取県	二級河川	河口掘削
	6 河内川	鳥取県	二級河川	河口掘削
	7 浜村川	鳥取県	二級河川	河口掘削
	8 永江川	鳥取県	二級河川	河口掘削
	9 勝部川	鳥取県	二級河川	河口掘削
港湾・漁港	1 東漁港	岩美町	第1種漁港	航路・泊地浚渫
	2 田後港	鳥取県	地方港湾	航路・泊地浚渫
	3 鳥取港	鳥取県	重要港湾	航路・泊地浚渫
	4 網代漁港	鳥取県	第3種漁港	航路・泊地浚渫
	5 岩戸漁港	鳥取市	第1種漁港	航路・泊地浚渫
	6 酒津漁港	鳥取市	第1種漁港	航路・泊地浚渫
	7 船磯漁港	鳥取市	第1種漁港	航路・泊地浚渫
	8 夏泊漁港	鳥取市	第1種漁港	航路・泊地浚渫
	9 長和瀬漁港	鳥取市	第1種漁港	航路・泊地浚渫

## 4.2 評価分析箇所の選定

1.1 に示した箇所内の、背後地の重要度、および近年の侵食状況等を鑑み、当会議では下記に示す箇所について、重点的に評価・分析をおこなう。

表 4.2.1 評価・分析対象の海岸及び概況

海岸	近年の状況	本検討における分析項目	事業費 * (百万円)
1. 岩美海岸 (陸上地区)	冬季風浪等により浜崖が発生 (H24、H26、H27 年度) サンドリサイクル実施 (H16 年度～) 潜り突堤整備 (H17 年度) 海上養浜事業実施中(H27 年度～)	汀線変化分析, 土砂変化量分析, 浜幅分析	72 (交付金・単独)
2. 岩美海岸 (浦富地区)	近年、人工リーフ開口部付近における局所洗掘・浜崖・汀線後退が顕著化 サンドリサイクル実施 (H13 年度～) 人工リーフ整備中(H16 年度～)、新たな整備方針に従い整備再開(H29 年度～)	汀線変化分析, 横断変化分析, 土砂変化量分析, 浜幅分析	404 (交付金・単独)
3. 千代川右岸漂砂系 (福部海岸・湯山海岸)	人工リーフ未整備区間、鳥取砂丘東側で局所的な海岸侵食が発生 サンドリサイクル事業 (H17 年度～) 人工リーフ整備中(H10 年度～)	汀線変化分析, 横断変化分析, 土砂変化量分析, 浜幅分析	262 (交付金・単独)
4. 千代川左岸漂砂系 (鳥取西地区白兔)	伏野海岸で浜崖が発生, 緊急的に土のうを設置 (H25、H28 年度)	汀線変化分析, 横断変化分析, 浜幅分析	5 (単独)
5. 気高海岸	浜村川右岸で浜崖が発生, 緊急的に矢板を設置 (H25 年度) 浜村海岸で局所的な侵食が発生, 緊急的に土のうを設置 (H26 年度) サンドリサイクル実施(H28 年度～)	汀線変化分析, 浜幅分析	61 (単独)
6. 青谷海岸	冬季風浪により浜崖が顕著化 (H26 年度) サンドリサイクル実施(H28 年度～)	汀線変化分析	30 (単独)

\* H28 年度

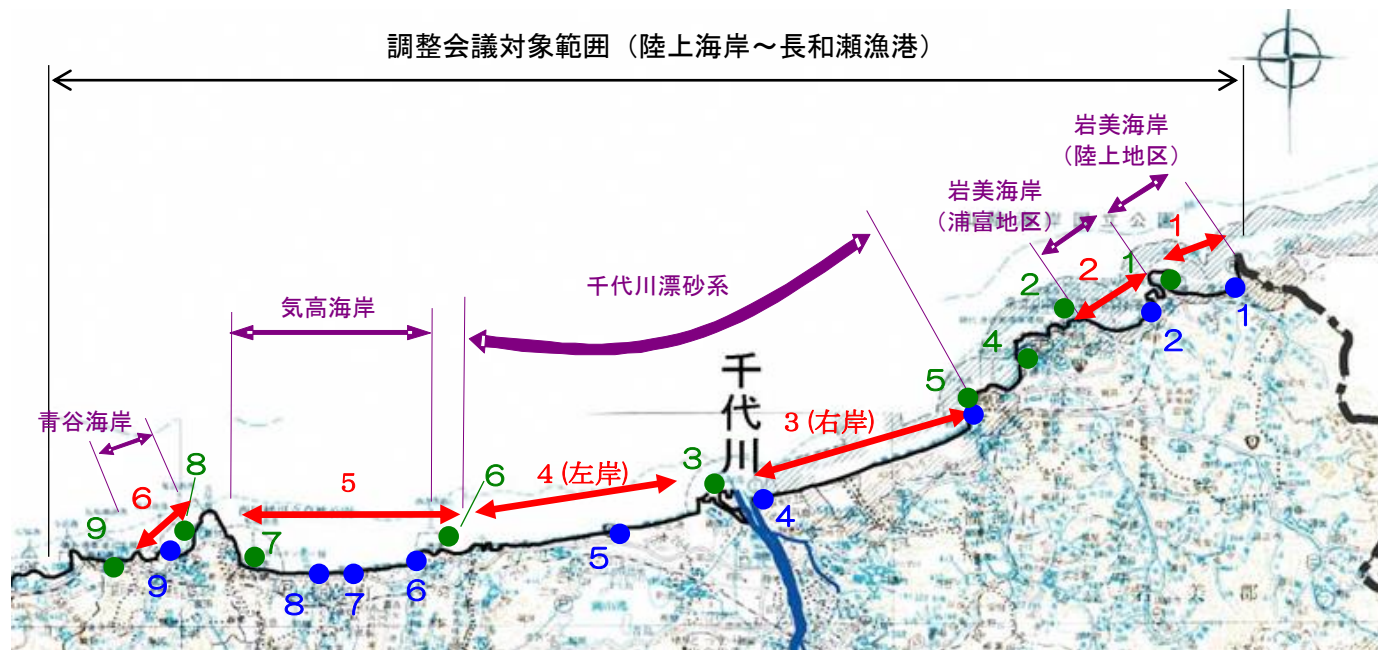


図 4.2.1 調整会議の対象範囲 (東部沿岸)

### 4.3 波浪・漂砂移動について

鳥取沿岸の波高・波向については、以下の傾向がみられる。(2003(H15)～2017(H29)年度の波浪観測データ活用)

#### 【春季～夏季】

- ・ 北北西～北北東方向の波浪が卓越する。一部、西北西の波も発生する。
- ・ 夏季は1m以下の波高に落ち着く傾向にある。

#### 【秋季～冬季】

- ・ 北北西～北北東方向の波浪が卓越する。また、特に冬季には北北西～北方向の波浪が卓越する傾向にある。
- ・ 冬季には波高が1mを超える波が多くなり、時折、3mを超える波も発生する。

#### 【年間】

- ・ 概ね、北北西～北北東方向に波浪が集中する。
- ・ 1年を通し1m以下の波が大半を占めるが、冬季には時折3mを超える波が発生する。

#### 【29年度の状況】

- ・ 春季、夏季、秋季について例年と概ね同じ傾向だが、夏季、秋季の波高がやや高い。
- ・ 例年に比べ、冬季の波浪の頻度がN方向が少なくNW方向が多い傾向がある。

#### 【対象範囲の漂砂移動について】

- ・ 土砂供給源が千代川河口であるため、漂砂系の平均的な土砂動態は、千代川左岸では東側から西側へ、千代川右岸では西側から東側への移動となる。
- ・ 岩美海岸、気高海岸、青谷海岸の漂砂移動は、旧来は、西側から東側、東側から西側への漂砂移動がバランスしていたが、現在は港湾施設建設等により、偏った漂砂移動が生じている。

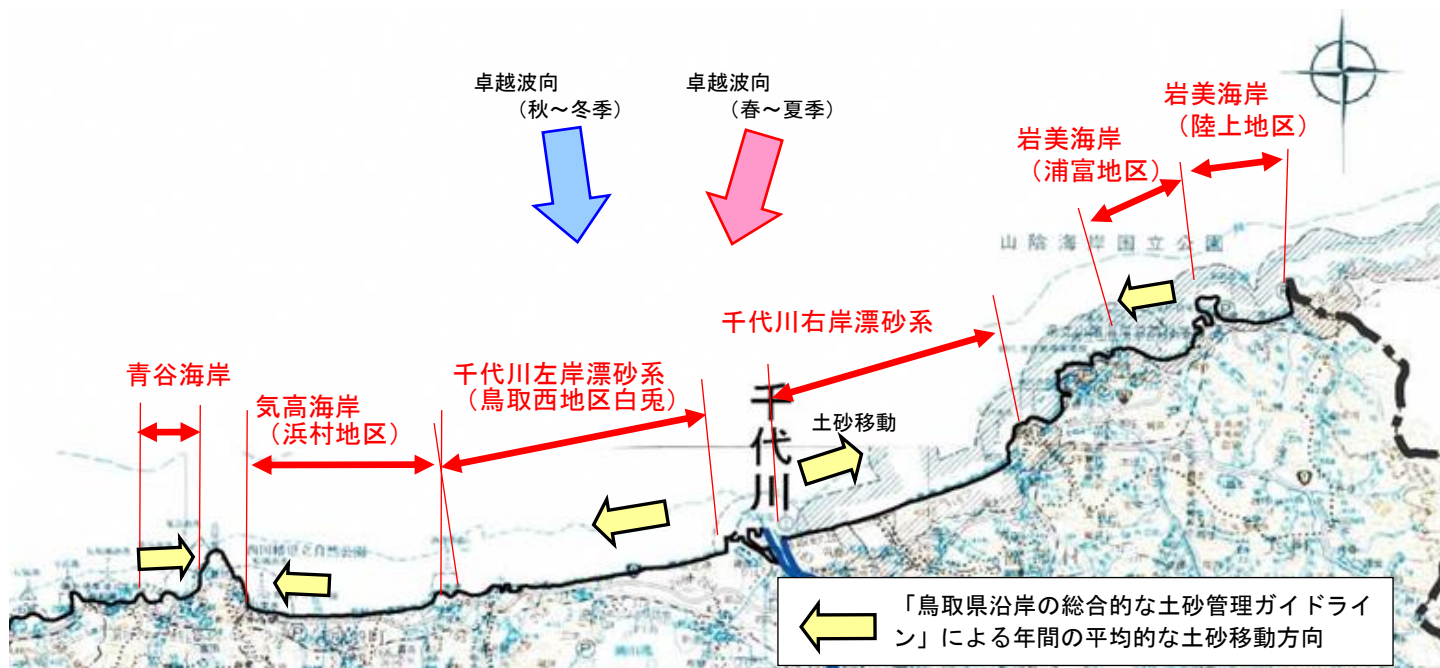


図 4.3.1 波浪と漂砂に関する模式図

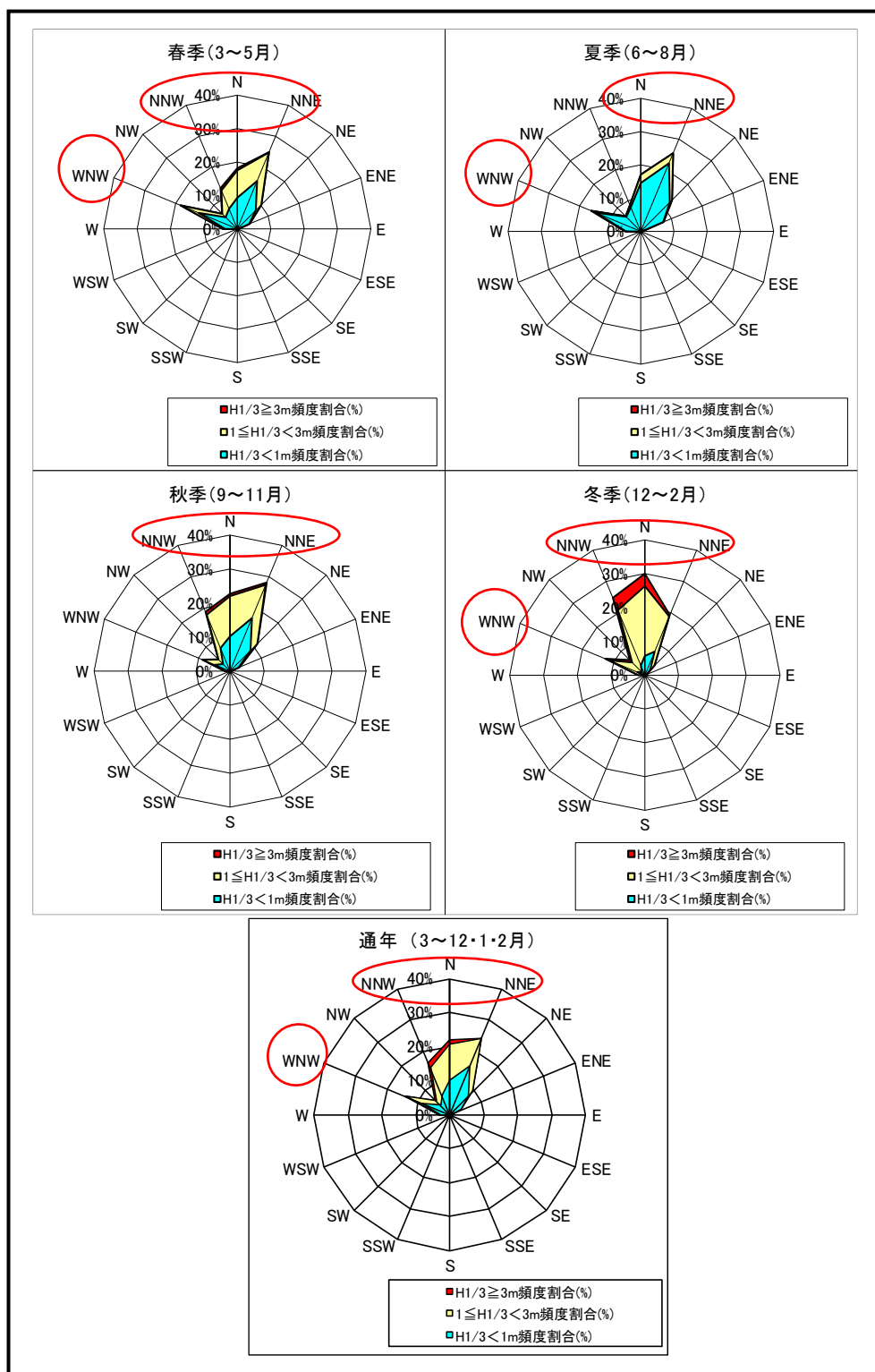


図 4.3.2 有義波高-波向頻度分布図（長期・2003 年度～2017 年度）

ナウファス（国土交通省港湾局全国港湾海洋波浪情報網）を活用

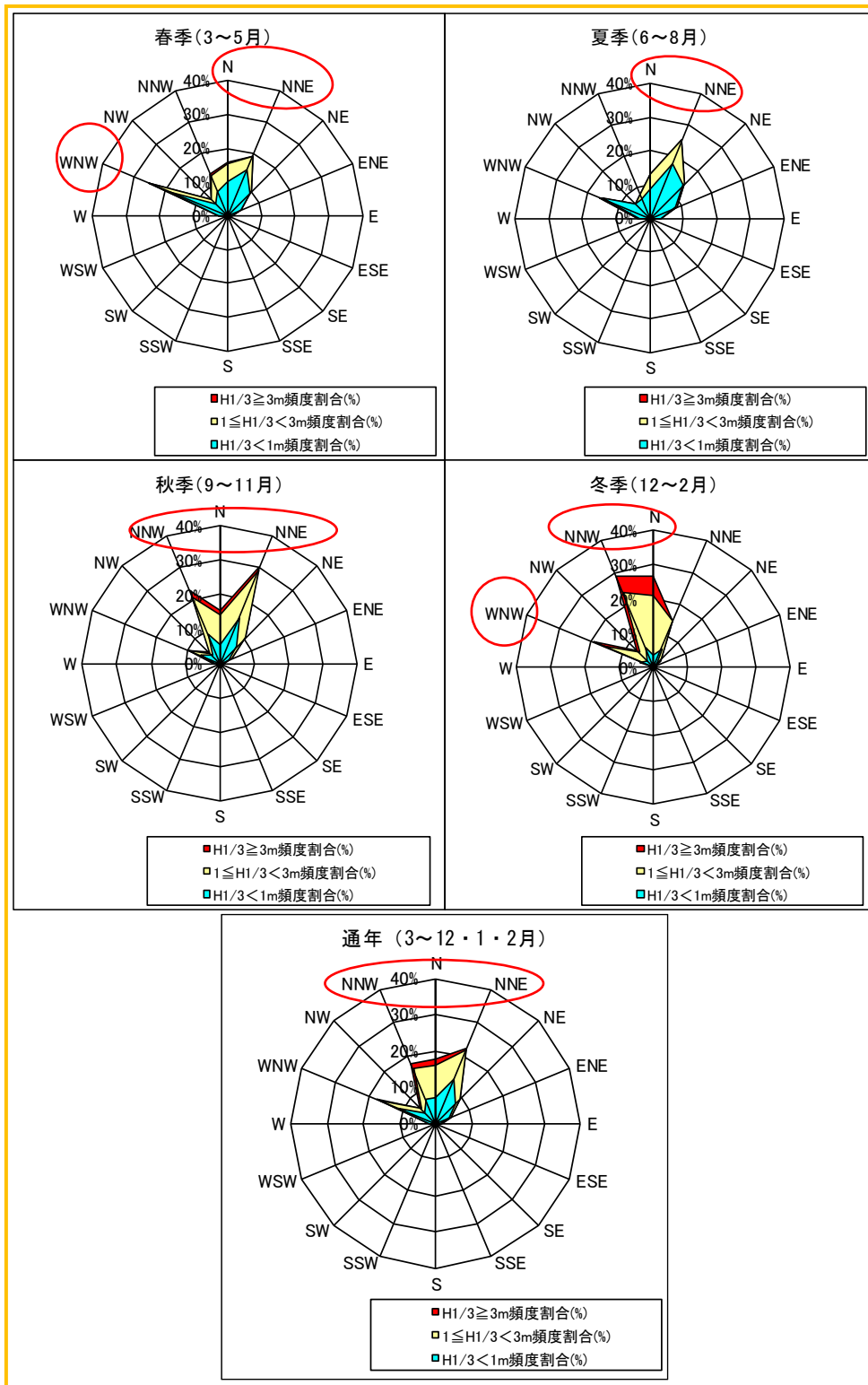


図 4.3.3 平成 29 年度の有義波高-波向頻度分布図 (単年・2017.3~2018.2)  
 ナウファス (国土交通省港湾局全国港湾海洋波浪情報網) を活用

